



Ledy Home Doctor

レディアホームドクター

[ホームページ <http://town.sanyo.oni.co.jp/ledya/doctor/>]

ご相談受け付けています。家族の病気のこと、女性ならではの体の悩みなど医師に聞いてみたいことをお寄せください。

☐郵送先 〒700-8634 山陽新聞社広告編集部「レディアホームドクター係」あて
☐メール ledya-doctor@sanyo.oni.co.jp

Q&A

Q 糖尿病で通院中です。軽度腎不全を合併していると主治医に言われましたが、進行を抑え透析にならないためにはどのようなすればいいですか。

A **糖尿病の透析患者、減少
血糖値と血圧コントロール重要**

わが国の透析患者数は2011年末現在で30万4592人と、初めて30万人を超えました。透析の原因疾患で最も多いのは、糖尿病(2011年末現在、導入割合44.2%)です。糖尿病により透析を始める患者数は1998年に1位になり、その後も増加していますが、2010年からはその割合が減少し、今後減少すると予想されています。世界的には糖尿病からの透析患者数がすでに減少傾向にありましたが、啓蒙活動や治療効果の結果、日本でもようやく減少に転じたとの見方があります。

糖尿病性腎症の治療でもっとも大事なことは、定期的に尿中アルブミンを検査し、早期腎症の時期までに診断して適切な治療を行い、顕性腎症に進ませないようにすることです。具体的な治療方針としては、血糖値と血圧を厳密にコントロールすることです。血糖値は、指標となるヘモグロビンA1c(HbA1c)値が6.9%(NGSP値)未満が目標、血圧は130/80mmHg未満が目標ですが、尿タンパクが1g(1日)以上の人は、125/75mmHg未満にすることが必要です。なお、場合によってはタンパク制限食や降圧剤の服用(尿タンパクを減らす作用のある薬)が必要な場合がありますので、主治医にご相談ください。

参照) 一般社団法人 日本透析医学会 統計調査委員会
日本慢性腎臓病対策協議会 CKD 診療ガイド2012

回答医師 **原口 総一郎** 先生



岡山第一病院 副院長
佐賀大学医学部医学科卒業。九州厚生年金病院、佐賀大学医学部附属病院、佐世保共済病院腎臓内科部長・内科部長を経て、2011年より現職。日本内科学会認定内科医、日本腎臓学会専門医、日本透析医学会専門医・指導医など取得専門医多数。

■岡山市中区高屋343
■TEL.086-272-4088

URL:<http://www.okayama-dalichi.jp>